

長崎新聞

発行所

長崎新聞社

長崎市茂里町3-1 〒852-8601

■主な電話	市外局番095
総合案内	844-2111
報道本部	846-9240
メディア編集部	844-2120
営業局広告部	844-4874
営業局事業部	844-5261
販売部	844-5063
読者ふれあい室	844-2139
総務部	844-2112
長崎新聞文化ホール	844-2121
アド長崎新聞	846-0676
佐世保編集(0956)22-9145	
佐世保販売(0956)22-5771	

www.nagasaki-np.co.jp/
©長崎新聞社2010

9月25日(土)
(先勝・旧暦8月18日)



県産紙宣言。

島原にピカソらの絵120点 あすまで

野の花風館チャリティー企画「現代国際巨匠絵画展」(長崎新聞社など後援)が24日、島原市内一丁目の島原文化会館で始まった。26日まで。

野の花風館チャリティー企画「現代国際巨匠絵画展」を運営する社会福祉法人野の花(野島九三男理事長)の設立5周年を記念して開催。フランスの画家、オリウイエ・トラモーニ氏の力強く美しい色彩の油絵を中心に、ピカソやミレー、平山

郁夫ら約60人の作品120点を展示、販売。期間中毎日、トラモーニ氏のサイン会もある。訪れた人たちは世界トップレベルの芸術文化に触れ、感銘を受けていた。野島理事長は「絵画展を通し、地域の方々に野の花風館の活動を理解してもら

い、障害者の自立の助けになれば」と話している。入場無料。(松本文泰)



オリウイエ・トラモーニ氏の作品が並ぶ「現代国際巨匠絵画展」

島原文化会館

島原新聞

発行所 島原新聞社
 株式会社 島原新聞社
 島原市中町 865番地
 電話 代表 0957(62)5141
 夜間・日暮 0957(62)5143
 FAX 0957(62)5142
 E-mail press@shimabara.jp
 郵便番号 855-0044
 (創刊)明治32年8月25日

仏国トラモニー画伯絵画展

温もりとパッションの世界

フランス国フレジエス市在住の画家、オリヴィエ・トラモニー氏(三七)のチャリティー絵画展が二十四日(金)から島原文化会館中ホールで開催されている。二十六日(日)まで。主催は精神保健福祉地域活動ふれあい工房野の花(野島三九男所長)。

一九七三年ニース生まれのトラモニー氏は美術学校卒業後、リヨンの織物工場でデザイナー、フレジエス市で古代遺跡発掘品を模



写する仕事に携わり、現在、同市から提供されたシックなアトリエで絵筆をふるっている。その作品は「コントラストとパッションの世界」と評され、日本人の感覚からすると強烈な印象があり、生命力(エラン・ウィタル)に満ち溢れている。

コントラストは赤と青といった対比だけでなく、白と黒もしくは「光の歪像(わいざう)」によってその波動が拡張され、「対比」の意味するもの複雑に對峙する現世へのメッセージを表現しようとしている。

「パッション」とは、一般に激情(情熱)と解釈されるが、西欧世界ではむしろ「キリストの受難」を意味することば。鮮やかな真紅色が、黒と光によって深められた赤で描かれる「花」は「ひなげし」らしい。それは別名「虞美人草」と称され、中国秦(しん)時代の末の武将・項羽の愛人で、項羽が劉邦に敗れるとき歌った「垓下の歌」にあわせ舞い自刃した「虞(ゆ)美人草」を表現する花(虞美人草)とされている。この美しい花に、しかも一本の輪(のこぎもの)が斜角に突き通され、花びらが舞い散る

さまに描かれているのは、キリストの十字架上の愛とそれを重ねているとも受け取れる。したがって作者が真紅色で表現するものは、単なる激情ではなく、贖(あがな)の血(人類救済の聖血)とも解される。

一方、子どもの頃、両親から「一人を尊敬し、(世の)ために生きなさい」と教えられ、その言葉がいつも念頭にあり、描いている」という氏。フランスプロバンス地方の「麦畑のある風景」、白銀の桃源郷を描いた作品「雪」などは、その向こうに人が住む家があり、日本の山水画にも似た境地がある。二十三日夕、会場であった歓迎レセプションでトラモニー氏は、とくにこのことについて、「絵を見て、人の世の温もりのある世界に旅をしてみたい」と話した。

レセプションには、横田島原市長も出席。「島原市もいま、歴史と自然遺産を活かし、文化的なイベントを展開しようとしている。折しも野の花さんの企画により、フランスから画伯を招いていただいた。すばらしいことだと思う。市も(行政として)生きがいのある人生創出のため、もっと力を入れていかなければならないものです」と、感激をこめ、あいさつした。

また、同展実行委員長の梅津氏(野島氏の中学時代の担任)と、同展のお世話をした児童図書出版社(株)ほるぷA&I(大阪府枚方市)が主催者と画家を紹介。なごやかな雰囲気の中で開幕した。

【写真】レセプションの席上、自作の絵を横田市長に贈呈し、会場を沸かせた